

# 令和6年度鹿児島県がん教育モデル校としての取組

奄美市立赤木名小学校

## 1 取組内容

### (1) 事前授業（令和6年12月16日）

事前授業の目標は、「がんの基礎的な知識を身に付けること」、「元がん患者さん(担任の母親)の思いを知ること」だった。

がんの基礎知識については、1学期に体育(保健領域)で学習したことを振り返った。その知識に加えて、がんサポートかごしまの資料「がんってなに？」とその内容について、パワーポイントにしたものを活用し、がんについて学習することができた。

元がん患者の思いについては、事前に3つの質問に答えてもらい、その回答を授業に活用した。質問の内容については、がんサポートセンターの三好さんとの事前打ち合わせの時間に助言をいただき考えたものである。患者さんを支えているのは、医療的ものはもちろん、家族や周りの人のサポートや心(精神的)の支えが必要であることをおさえた。



### (2) 本時の授業（令和6年12月18日）

本時の授業は導入と終末を担当が行い、展開を本時の講師であるがんサポートセンター三好さんが行った。

導入では、事前授業の振り返りを行った。また、めあてで「命を大切にすること」と「自分らしく生きる」という言葉をキーワードとして入れた。

展開の前半では、三好さんが児童のアンケートに書いてある質問に答えていく形式で行い、後半では「かみづるさんのいのちの授業」のスライドを見ながら、がん経験者の思いや願いについて触れた。

終末では、三好さんの話や「かみづるさんのいのちの授業」の話を聞き、児童の言葉を生かしながら授業をまとめることができた。また、授業の感想も書かせた。今回の授業で、多くの学びがあったことがうかがえる感想が多かった。授業全体を通して、三好さんの語り掛ける言葉や表情を、児童たちは真剣なまなざしで受け止めていた。また、「かみづるさんの命の授業」の話では、涙を流しながら話を聞いている児童もあり、真に心に刺さる授業だったと感じた。このような思いになる経験は少なく、児童にとってかけがえのない時間となった。



### (3) 三好さんへの手紙（本時の授業の振り返り）

授業後に、三好さんへの手紙を児童に書かせた。今回の授業を受けて児童がどのような思いになったのか、一番思いが表れるのではないかと思った。感想は、がんについてというよりは、「自分なりにどう生きたいか」という視点で書かれたものが多かった。がんになってもならなくても自分がより良い人生を歩むことが大切であることを理解してくれた証拠であると考えられる。三好さんのお話から、人生の歩み方まで考えて手紙を書くことができた。この時間で、児童の心が成長したことを大変嬉しく思う。

## 2 成果と今後の展望

### (1) 成果

ア 児童ががんについての知識を得ることができた。

イ がんの知識を得ただけではなく、人生の歩み方について考えることができた。

ウ 講師を招聘したことにより、児童の心に残るがんの授業ができ、がんやがん患者に対する理解が深まった。

### (2) 今後の展開

ア 学校全体でがん教育について研修を行う機会を設けられるようにしたい。また、がん教育を教育課程（体育の保健領域、総合的な学習の時間、学級活動等）に位置付けていきたい。

イ がん教育に特化した講師を招聘することが毎年できればよい。身近な医療関係者で招聘できるとよりがん教育を進めやすくなる。